



水産情報速報版

H18. 7.28 1202

静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行 = 指導部 漁政課
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

1. 2006年度合併等推進全国会議を開催

= 資料提供JF全漁連 =

JF全漁連では7月21日、サンケイプラザ(東京)において、「2006年度合併等推進全国会議」を開催しました。会議には、JF漁連や行政、合併推進専任組織などから約100人が出席し、2007年度末のJF合併構想の完遂に向けた取り組みについて、次のとおり協議・報告が行われました。< JF合併構想の完遂に向けた取り組み、JF合併等に対する今後の指導、施策方向、その他の報告、事例報告：1県1漁協構築に向けた取り組みについて(宮城県・高知県)>

JF合併の進捗状況は、2006年8月1日時点(見込み)において1,299JFで、2007年度最終目標に対する達成率は45%となります。各県の最終構想達成に向けた取り組み状況は、達成済み、もしくは達成がほぼ確実 = 9県、達成に向けた取り組みを推進中 = 16県、達成への取組が部分的 = 10県、見直し等取り組み方針を変更 = 5県です。調査結果に基づく課題としては、再編方向性の確認、協議組織の早期立ち上げと協議促進、漁業権管理JF等への取り組みが挙げられました。

実践報告としては、宮城県漁協合併推進本部高館事務局長より、全JF参加の合併には未だ途中とした上で「合併は、組合長・役職員の強い力がないと完遂できない。総意を得るために行動し、合併のメリットを示すことが大切」と述べ、高知県漁協合併推進本部竹村本部長は、協議決定する「県1漁協構想推進委員会」をマスコミ公開するなど、合併に関する情報の共有を図ったこと、課題である参画基準策定のため、全JFの財務調査を踏まえた上で、基準の検討を行っているとの報告がなされました。

2. 下田でも「海の日」を祝う式典が開催される

伊豆海事広報協会、中部運輸局下田海事事務所や下田海上保安部などによる「海の日(7月17日)」を祝う記念式典が、7月19日下田市民文化会館において、関係者約100名が出席し開催されました。

同協会萩原会長より、「海は観光、漁業の活性化に欠かせなく、今後も海の大切さや、海事関係の思想啓発に努めていきたい」と挨拶が述べられました。

表彰行事では、漁協関係者として伊東市漁協根崎組合長(海上保安協会下田支部長)に、多年に亘り海上保安協会下田支部の役員として、海上保安思想の普及等に寄与した功績が認められ、下田海上保安部長感謝状が授与されました。

3. 「アクアスやいづ」が落成・オープン

駿河湾深層水体験施設(タラソセラピー)「アクアスやいづ」の落成式とオープニングセレモニーが7月19日、新焼津漁港の一角に完成したアクアス焼津で行われました。

同施設は、富士山や駿河湾などの景観を活用し、海洋深層水を用いて市民の健康はもとより、癒し・くつろぎ・安らぎの場として、観光客の誘致を図り、市民と観光客の交流促進のためのコミュニティの場を提供、地域の活性化を目的に水産庁の「新漁村コミ

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

ユニティ基盤整備事業」の助成を受け建設したものです。

また施設の外観は、海に浮かぶ船がモチーフで、ガラス張りのプールの水辺と、海、空が一体化する広大な眺めとなっており、館内には、水中運動用プールやトレーニングルーム、全身・顔面パック、筋肉をもみほぐすトリートメントルームなどのほか、レストランを備えています。

同施設には、深層水ミュージアム、県の深層水利用水産研究施設が隣接し、この一帯は深層水エリアとして、来年5月には、隣接地にレストランや地場産品などを売る施設が開業します。従来の漁港の概念の枠に捉われない新たな観光スポットとして注目を集めそうです。

4. 平成18年5月分の家計調査報告が公表

総務省はこのほど、家計支出(家計調査報告、全世帯)の平成18年5月分を公表しました。それによると、消費支出は前年同月比1.3%減の29万2,169円と30万円を割り、そのうちの食料も2.4%減の7万4,795円で、魚介類は3.6%減の7,193円と軒並み前年を下回る結果となりました。生鮮魚介類の購入量については、1.8%減の3,234g²、支出金額は3.1%減の4,430円と、生鮮魚に対する消費も伸び悩みました。

そのうちの鮮魚の購入状況をみると、前年より大きく下回ったのがイワシ、タイ、エビ、カニで、そのほか、マグロやカツオ、カレイ、刺身盛り合わせなどが購入量と支出金額とも前年割れとなりました。

一方、消費が好調だった魚種はサバ、サンマ、タコの3魚種で、購入量と支出金額とも前年を上回りました。このほか、ブリやイカは購入量では伸びたものの、単価の下落で支出金額は前年を下回りました。

5. 「ぼくらの大地・森・海の恵み(ジュニア農林水産白書)」を作成

農林水産省ではこのほど、日本の食料や農林水産業、農山漁村について、子供たちの関心と理解が深まることを狙いとして、農、林、水の白書の内容等を踏まえ、これら各分野を一体的に取り上げた冊子として、「ぼくらの大地・森・海の恵み(ジュニア農林水産白書)」を作成しました。

今回発行する18年版では、最新のデータやグラフを盛り込み分かりやすく解説し、イラストや写真、親しみやすいキャラクターを活用しているほか、食料・農林水産業に関するクイズを新たに掲載するなどして、児童・生徒がより親しみやすく、楽しく読んで学んでもらえるように工夫が施されています。

同省は、この冊子が農林水産業について学習する小学校社会科の授業や小中学校で実施している「総合的な学習の時間」、夏休みの自由研究などで、幅広く参考資料等として活用されることを期待しています。

また、同省ホームページ(<http://www.maff.go.jp/>)に全文が掲載されていますので、ダウンロードにより活用できます。

6. 会議・日程(8月1日(火)~8月14日(月))

- 既報分省略 -

8月 9日(水) 県養鰻協会 = 合併研究協議会(県水産会館)

8月11日(金) 県ふぐ漁組合連合会 = 役員会・漁場利用調整会議(県水産会館)

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう